



令和3年3月7日
バイオコモ株式会社
代表取締役 福村正之

2021年3月3日の MediciNova,Inc.の報道を受けて

令和3年3月3日に MediciNova,Inc. (以下メディシノバ社) より発表されました「バイオコモ株式会社及び三重大学との新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) に対する新規ワクチンの共同開発に関する協議の終了に関するお知らせ」につきましてお知らせいたします。

記

去る2020年11月24日にメディシノバ社より CDMO 機関への MVSS 製造着手の IR がなされました。当該 IR はバイオコモ社 (以下当社) 及び三重大学への告知の連絡もなく、また特許の実施許諾がなされていない状態で、メディシノバ社より一方的に行なわれたものであります。2020年7月26日付での新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) に対する新規ワクチンにかかる基本合意書の締結後、新型コロナワクチン開発ということで正式な契約の締結前に開発に着手いたしました。しかし、メディシノバ社との正式な契約の締結がなされない状態が続いたため、当社はメディシノバ社とのワクチン開発に関する進捗会議への参加を11月下旬以降控えておりました。

新型コロナワクチンへの適用も含め BC-PIV ベクターの作製・使用には高度な技術を要しますが、当社と三重大学では遺伝子組換え及びウイルスの取扱いに慣れた研究者により当該ベクターの実用化に向けた技術が確立され、これまでに当該ワクチンベクターの増殖等に関して問題が生じたことはございません。当該技術は査読付き論文 Gene Therapy(2014)21,775-784 に掲載され、日本、米国、中国、欧州(8カ国)で特許化されており、ウイルス等の取扱い経験者であれば、BC-PIV を利用したワクチン技術は再現性の高い堅牢な技術であると確信しております。

メディシノバ社との技術協議が円滑に行われなかった状況で、当該ベクターの MVSS 作製委託機関でメディシノバ社指摘の問題が生じました。当方ではこれまでウイルスを扱う上で多くの問題に対処した経験があり、今回生じた「ウイルス数 (力価) 測定法及び培地の pH の問題」は BC-PIV ワクチンに係る根本的な問題ではなく、初歩的なもので容易に解決できると考えておりました。しかし、メディシノバ社では今回の問題が開発を遅延させる重大な問題等と捉え、新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) に対する新規ワクチン開発の中止を決断されました。

今回メディシノバ社と新型コロナウイルスワクチンの開発を共有させていただく途が閉ざされたことは心より残念に思います。

今後は脅威となりつつある変異型の新型コロナウイルスに対する経鼻噴霧型ワクチンの開発にも注力してまいります。

■ バイオコモについて

会社名：バイオコモ株式会社

代表取締役：福村 正之

所在地：三重県三重郡菰野町菰野 1 3 2 5

URL: <http://biocomo.jp/>

バイオコモは、新規ワクチンや治療薬の開発により既存ワクチンが存在しない感染症への感染防御やがん患者を救うことで福祉に貢献することを目指しております。

三重大学と共同で開発した安全性の高い BC-PIV 及び VLP/BC-PIV 技術を用いて、RS ウイルス、エボラウイルスのワクチン、T 細胞の活性化により難治性固形がんを治療する抗腫瘍免疫活性化剤の開発に取り組んでおります。

お問い合わせ先：info@biocomo.jp